図書館だより

令和４年度　第３回　愛媛県立小松高等学校　研修図書課

３年ぶりの通常開催となった西条祭りの賑わいから、３週間が過ぎようとしています。私は川入の見物に行きましたが、提灯を付けた 70 台を超える楽車（だんじり）が揃う姿は荘厳かつ幻想的でした。西条は夫の故郷です。80 歳になる義父はだいぶ物忘れも激しく、すっかりお爺さんで歩くこともおぼつかないのですが、祭りの 2 日間は「血が騒ぐ」のかとても元気で、昔の様子や楽車の変遷、楽車の彫刻のことなど、熱弁してくれました。祭り好きの皆さんも、西条祭りの由来や伝統について、深く調べてみてはどうでしょう。来年はもっと西条祭りに魅了されるかも知れません。祭りには人をつなぎ、地域の団結力を高めるという良さもあります。今年の卒業生が祭りに合わせて帰省しており、会いに来てくれました。話を聞くと、地域の人に頼まれ、今年から腕章を付け、楽車の運行に関わったとのこと。とても頼もしく、大人にみえました。

寒気の到来で一気に季節が変わり、石鎚山の初冠雪の知らせもありました。「秋の陽はつるべ落とし」という言葉を知っていますか。最近、日の入りが急に早くなったと感じている人も多いのではないでしょうか。実は、日の入り時刻と日にちの推移は、年間を通して 一定ではありません。この時期の日の入りは日に日に早くなることが実感できるくらいですが、12 月下旬から 1 月上旬はほとんど変化がありません。

秋の夜長、季節の移り変わりを感じつつ、心静かに読書に親しんでみてはいかがでしょう。図書室へもどんどん足を運んでくださいね。

2022　第 76 回　読書週間

終戦の２年後の 1947(昭和 22)年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第１回「読書週間」が開かれました。

第１回「読書週間」は 11 月 17 日から 23 日でした。これはアメリカの「チルドレンブック・ウィーク」が 11 月 16 日から１週間であるのにならったものです。各地で講演会や本に関する展示会が開かれたり、読書運動を紹介する番組が作られました。今の 10 月 27 日から 11 月９日（文化の日をはさんで２週間）になったのは、第２回からです。

それから 70 年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まってきています。

今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらうきっかけとなることを願っています。

今年のスローガン　「この一冊に、ありがとう」

〈作者　天野耕平さんのことばより〉

読書で心が震える体験は、何物にも代え難い奇跡のようなものだと思います。そして、自分の未来にはそんな奇跡がまだまだたくさん待っているという妙な確信もあります。本に関わっているすべての人に、感謝を伝えたいです。

no image

私の愛読書

今年度、本校に赴任された先生方から、愛読書を紹介していただきます。

☆☆ 茂松克明先生より ☆☆

半透明人間の逆襲　加納一郎 著

no image

中学生ぐらいの頃に、先輩に紹介してもらいました。加納一朗の「是馬・荒馬シリーズ」で、是馬と荒馬というおかしな兄弟と変なものばかり発明する北川博士とその娘のひろみが繰り広げる SF コメディ？

読書の習慣のあまりなかった自分にも楽しく読め、それ以降このシリーズを買って読みました。楽な気持ちで読める作品です。

☆☆ 梶原健作先生より ☆☆

忍びの国　和田竜 著

no image

小さいころから読書が大好きで、時間があれば本屋に通っていました。私が「面白かった！」と思う本の中でも、絶対に紹介したいおすすめの一冊は、「忍びの国」です。

「忍びの国」は、戦国時代、天正伊賀の乱を題材とした歴史小説です。織田軍と伊賀忍び軍団の戦が、魅力的で破天荒な人物、スリリングな謀略、迫力の戦闘で描かれています。戦国時代特有の価値観や考え方、冷酷で残忍、金の亡者で人でなしの伊賀忍者など、その情景が目に浮かぶようなきれいな描写で、物語に没頭することができます。

ライトノベルのような読みやすさで、最後まで一気に読める爽快な物語ですので、ぜひご一読ください。

お知らせ

○　2023 第 65 回「こどもの読書週間」と第 77 回「読書週間」の標語募集
11 月 15 日までの募集です。詳細は公益社団法人読書推進運動協議会の HP をみてください。

○ 第 34 回　読書感想画中央コンクール愛媛県募集　2023 年 1 月 6 日締切
右は昨年度の指定読書部門から愛媛県審査最優秀作品に選ばれた、3 年生の八木晴誠さんの作品『再生』です。2 年生の十亀美沙紀さん、卒業生の西原康生さんも優秀作品に選ばれており、これらの作品は、今年度の『らいぶらり』に掲載されています。

no image